



2022.7.27

アレルギー

自律神経

～つながりと症状変化～



一般社団法人

日本アレルギーリハビリテーション協会 代表

理学療法士 及川 文宏



内容

- アレルギーはなぜ生じる？
- セラピストの担う役割
- 自律神経と免疫
- リンパ球の自律神経生理学
- 血液循環の役割と重要性
- 交感神経と血管(血液循環)の関係
- ホルモンとアレルギー
- アレルギーと自律神経の繋がり



「風邪の引き易さ」とリンパ球

- 「風邪を引きにくい人」と「風邪を引き易い人」のリンパ球の数を検査 → どちらの値が高いか？（血液検査）

結果：あまり変わらない

なぜ？

- 「あること」をした後にもう一度、血液検査

結果：リンパ球の数に差が出る

「風邪を引きにくい人」：リンパ球が多い

「風邪を引き易い人」：リンパ球が少ない

「あること」とは何か？

リラックスできること



及川文宏



(一社) 日本アレルギーリハビリテーション協会 代表理事
アレルコア 代表 理学療法士
福のしま研究会 会長

子供が40日ほど予定日より早く生まれる。熱性けいれんや様々なアレルギー疾患を経験。自分が何もできないことを痛感。アレルギー疾患において、セラピストである自分に何が出来るのか模索する。薬の必要性和限界を学び、セラピストがやるべきことを知る。将来的に、病院やクリニックにアレルギー疾患や自律神経のトラブルに対応するセラピストがいる社会するために活動している。

**アレルギー疾患や自律神経のトラブルのあるお子さんを持つ
パパママセラピストを全力で応援します！**



アレルギーは、なぜ生じる？

- 抗原抗体反応（自己-非自己）▶ 白血球のバランスの乱れ
- タンパク質の消化の問題（腸の未発達 or 炎症を繰り返す）
[食物アレルギー]
- 排泄の障害（排便、排尿、発汗など）
- 血液循環の障害
- ホルモンバランスの乱れ
- 免疫器官（脾臓・胸腺・リンパ節）の障害

**セラピストに何ができるのか？
何をしなければならないのか？**



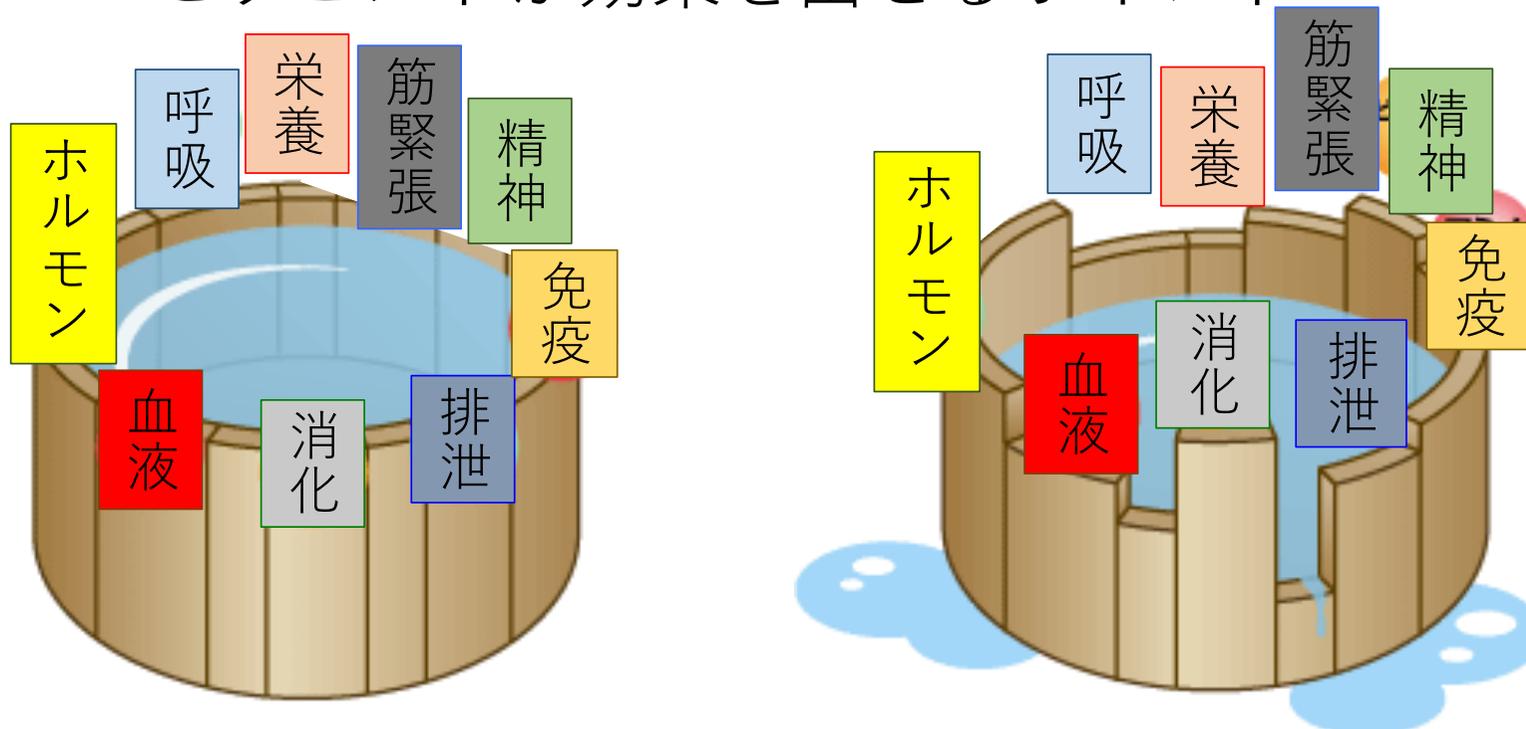
セラピストが担う役割

- 抗原抗体反応 ➡ 自律神経の機械的ストレスを取り除く
- タンパク質の消化 ➡ 腸管（小児）の発達促進
- 排泄機能 ➡ 骨盤や腸のアライメント修正、柔軟性向上
- 発汗機能 ➡ 皮膚や筋・筋膜への介入
- 血液循環 ➡ 血管への介入による血流改善
- ホルモンバランス } ➡ 内臓の位置や柔軟性の評価と
- 免疫器官 } マニピュレーションによる介入



優先順位の選択

- 水が漏れている箇所
- 二次的な障害生じるポイント
- セラピストが効果を出せるポイント





アトピーの9つの原因

生理学で証明済み

①乾燥肌

(ドライスキン)

②免疫システム
の異常

③かゆみ



アトピーの9つの原因

- ①乾燥肌（ドライスキン）
- ②免疫システムの異常
- ③かゆみ
- ④血液循環
- ⑤発汗機能
- ⑥皮膚の柔軟性
（筋筋膜の柔軟性）
- ⑦ホルモンバランス
- ⑧内臓機能
- ⑨精神状態



血液循環の役割とは？

- ① 運搬 {
 - ・ 酸素、二酸化炭素
 - ・ 栄養素、ホルモン、免疫物質
 - ・ **老廃物** ← **炎症に関わる**

- ② 免疫 {
 - ・ 異物除去（細菌やウイルスなど）
 - ・ 止血作用

- ③ 維持 {
 - ・ 浸透圧
 - ・ pH
 - ・ **体温** ← **冷えやほてりに関わる**



血液循環に影響を与えるもの

- 心臓
- 自律神経：**血管の収縮と拡張**（心臓自体も含む）
- 外圧：血管に加わる外からの圧力
（**筋・筋膜**、靭帯、神経、骨、内臓、皮膚、気圧等）
- 血液成分、内臓の状態など



アレルギーに対する**7つの介入**

- ①骨の柔軟性の確立とアライメント修正
- ②筋・筋膜の偏りの修正
- ③血液循環を促す（血管への介入）
- ④皮膚の調整
- ⑤内臓の調整（腸管系、免疫系、ホルモン調節に関わる臓器）
- ⑥神経の調整
- ⑦脳脊髄液の循環を促す



ご清聴ありがとうございました。

- 日本アレルギーリハビリテーション協会 HP

Mail : allergy.rehabilitation@gmail.com



講習会情報はこちら↑

- 及川文宏／アレリハ協会

Fumihiko_Oikawa



- Note : アレルギーとたたかう理学療法士

アレルギー疾患や自律神経の乱れに対する

臨床のヒントを伝える https://note.mu/fumihiko_oikawa

